

神山神社だより

平成 31 年 3 月
2 3 号

■ はじめに

平成三十一年に入り早一ヶ月半過ぎようとしています。時の経つのは早く平成も終わりを告げ新たな時代が始まるうとしております。このことは皆様方もご存知の通り本年、天皇陛下が御譲位され、皇太子殿下が天皇にご即位される事となりました。国民一人一人がこの御代替わりに伴う祝典にお祝い申し上げ温かく見守ることが必要かと思えます。そして平成の時代が終わり新しい元号による時代が始まる事となります。日本国の象徴として活動され、御譲位されます陛下のご健勝と、天皇家の弥栄を祈念申し上げます。

■ 新春の神事

今年一月は例年になく天候がよく暖かい日が続いており、元旦祭、還暦報告祭、厄払い、福岡交通安全協会の交通安全祈願祭等の神事もどこおりなく行なうことが出来ました。還暦報告祭では四十四名の方が神前にてお祓いを受け、厄払いでは九名の方がお祓いを受けました。その際、神社に對しまして多大な奉納金を頂戴いたしました事、誠に感謝申し上げます。

■ 建国記念の日

二月十一日は建国記念の日で祝日です。各戸毎に日の丸の旗を掲げていた事だと思えます。元は「紀元節」と呼ばれ明治六年から祝日としていましたが、戦後、廃止されました。昭和四十一年「建国をしのび、国を愛する心を養う日」として国民の祝日に加えられました。なぜ、建国の日でなく建国記念の日かと申しますと天照大御神の末裔である神日本磐余彦尊「カムヤマトイワレヒコノミコト」(神武天皇)が日向国(宮崎県)から大和国(奈良県)に東遷して国土平定後、大和国橿原の宮で初代天皇として即位したと伝えられており、日本書紀に「辛酉の年」と記述してあります、延宝五年(1677年)に渋川春海によつて編纂された日本最古の長暦によると紀元前六六〇年となり、今年は皇紀 2679 年の年となります。即位された年月日が本当に正しいかどうか学術的に明確でない為、旧暦一月一日を即位日とすると新暦二月十一日を妥当とするところから記念の日とされたようです。

■ 新春伊勢神宮参拝旅行

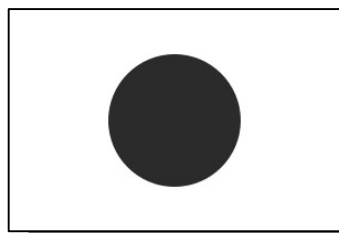
一月十八日・十九日と参拝旅行に出掛けました。今年は田瀬区・下野区・福岡区・高山区で合計一六〇名の方が参加され一日目は神宮で正式参拝の後、ホテルで直会を行い、二日目は長島ジヤズドリームアウトレット・名古屋城本丸御殿のコースにて楽しく旅行を過ごすことができました。毎年、多くの方と知り合える良い機会です、未だ参加されていない方、ぜひとも来年の伊勢旅行に出掛けてみてはいかがでしょうか。

■ 国旗掲揚のお願い

冒頭にも述べたように今年は平成から新しい元号に替わる節目の年です。昭和から平成に替わった三十年前は昭和天皇が崩御され悲しみの中で平成を迎えました。その為、平成元年は色々な行事が自粛傾向で行なわれ、其の翌年に今上陛下の奉祝行事がしめやかに行われました。この度の御代替わりは今上陛下の在位三十年・ご成婚六十年のお祝いから始まり生前御退位の祝典、皇太子殿下の御即位の祝典と目白押しです。岐阜市・高山地方では既に御祝いの為の奉祝パレード等を企画し進めているとのこと。この地方では大きな奉祝行事を企画し進めてはおりま

せんが神山神社では五月一日の皇太子殿下の天皇ご即位に合せ神社にて奉祝記帳を執り行います。福岡区の皆様方にお願ひがあります。四月二十八日から五月五日まで国旗を掲揚願ひます。

天皇は国の象徴であり、常に国民の安寧を願ひ、深い信頼と敬愛を以つて務めを果たしておられます。ありがたく思う気持ちを表す方法として国旗を掲揚しようでは在りませんか。



古代において人々は自然や精霊を崇拝しており、その中でも太陽を深く崇拝し太陽神として崇め祀りました。「日に向かい事を進めることは良くない、日を背にして事に当たる(日の神の加護をうける)」ところから日の丸が出来たと考えられています。西暦七〇一年頃より日の丸の原型が在ったと伝えられる

■ これからの祭り

- 二月二十二日 天神神社祭典
小学生の児童による奉書
三月よりホットサロン掲示
- 三月 一日 春祭り(祈年祭)
- 三月二十一日 戦没者慰霊祭
祖霊舎御霊祭り
震災鎮魂祭



■ 歴史探訪

「苗木伝」井口家古文書の挿絵

大永年中（1521～1527）高森城（今の苗木城）を築く際、植苗木にあったとされる飛天王社（後に牛頭天王社）神霊を高森城下に遷座する様子であるが、現在の榊山神社宮地（桧坂）にて動かなくなつたとされる挿絵である。古文書の一節には以下のことが書かれている。

「・・・この所へ城を移し高森と号し、嫡子加藤左衛門景長と共に住居す、旧城久敷きの地なれば、苗木の郷名をも高森に移し城跡を福岡と号し、氏神を

も城中へ勧請すべしと促人数神輿を迎える処、今の宮地に至り神輿不動して役士奇異の思いをなす所に、一人の男、口走りて曰く、吾は牛頭天王なり、高森に行くことあらじ、此所主神相応の地なればこのところ跡をたるべしと云ふ、此のことがあつてこの所に勧請し古くは養老の頃より毎年六月十四日を祭礼と成す・・・」

この挿絵を見ると右上の山道とおぼしき道が植苗木に通じる道で桧坂と思われる。中央の男が行列の進行を止め訴えている様子であろう。いくつか古文書がありますが挿絵そのものはこれのみしか存在しませんし一番史実に近いものだと考えられます。他の古文書

では榊の枝で役士を叩いたり、男でなく子供であつたりと文章はまちまちでありますが大筋、内容に違いはありません。

※ 旧暦六月十四日の祭りは新暦七月二十日となり、今では第四日曜に変わる

この史実により現在の榊山神社が今の地に存在する所以です。

■ 雨乞い祭り

宗教的儀礼に雨乞いがあります。早魃が続いて雨が降らないとき雨を降らせる為に、祈禱する神事です。昨年、七月八月と雨が降らず稲の生育が遅れ、更には九月に雨が多く降り、稲刈りが遅くなり、やきもきした事と思います。この福岡でも昭和の始め頃まで雨乞い祭りが時々に行われていたようです。その様子を「植苗木昭和史」に見ることが出来ます。

「各戸一名が広恵寺堤に集まり揃つて下村に行き川原から御白石を五十個持つてきて榊山神社へ供え祈願し、後、東山の中根まで登り、そこで火を焚いてお祈りをします。尚も雨が降らないときは福岡区中申し合わせて、二ツ森山頂まで登り、火を焚いて祈願、後に榊山神社に集まり松の丸太で両端に各部落で編んできた太い丈夫な縄を結わえ屈強な若者が自分の部落の方へと互いに引っ張り合い、あたにかまわず騒ぎながら下村の付知川の川べりまで運び、川岸のやや高いところ

ろにたて置き神官と共に再祈願した。」

この雨乞いの神事は二ツ森の山頂の岩に記録されているようです。登られる方はどこに書かれているか調べてみてはいかがでしょうか。

明治二十六年八月六日・明治三十三年六月二十五日・明治四十二年八月八日・大正十三年七月二十四日・昭和六年八月十七日・昭和十七年八月十三日

近頃の天候を考えますと何時の日か雨乞い祭りをすることにならないか、其の逆に大雨で災害が起きるのではないかと心配します。

■ 建設委員会より

社務所建設の為、寄付金奉賛金いただけます方を各地区氏子総代さん通じて調査させて頂いております。三月頃から振込願ひ又は個別集金と思っておりますが、調査が遅れている関係上、六月頃より進めてまいりたいと思ひます。

ぜひとも建設資金集めにご協力お願い申し上げます。

榊山神社

宮司 深谷 耕平

☎0573-72-2892

お問合せ先